



発行所 津市新町3丁目1-1 津高等学校 同窓会事務局 0592-29-7331 共立印刷株式会社

百十五周年記念事業報告... 2 雑感... 3 陳川哀歌... 3 ネコに学、余不即離... 4 若い命への、れいれい... 4 ひとまご様、チャリッ... 5 あなとも狙えノール... 5 野球場百周年... 6 「母権制」翻訳記... 6 二期制を導入して... 7 各地同窓会報告... 8

心よもて友よかへ意を致し



タイトル 書 津中応援歌より 風景・海

千草 光洞 (昭和23年卒) 高間 公子 (昭和37年卒)

同窓会長

岡村初博 (昭和15年卒)



京地下鉄サリン事件等暗澹たる事件に明け暮れましたが、会員の皆様には、清祥のごと拝察します。特に阪神地区に在住の皆様には被害の甚きおそれ、各々が復讐に取り組まれた一年であったことと思ひます。改めてお見舞い申し上げます。

明けましておめでとうございませう。昨年は阪神大震災に始まり、東

ご挨拶

学校長 井坂 剛



平素は、母校発展のため、御理解・御支援を賜り、深く感謝申し上げます。昨年四月から学校週五日制が月二回となり、前年度に比べ、月

始め、数々の功績を残された辻嘉一先輩の後を受け、会長を引き受けることとなり、誠に光栄であると同時に責任の重さを痛感しております。

「高承の通り、会員名簿登録数約四万、年一回の会報郵送数は、約二万八千となり、世代も三世代に亘るなど天所帯となつて来ましたので、副会長二名増員をお願いし、役員体制を充実することが決まりました。役員の方々は別掲の通りでありますので、会員各位のご指導ご協力を切にお願い申し上げます。

さて、五年後の新世紀(平成十二年)は、母校創立百二十年、三重校百周年、津高同窓会発足四十周年と記念すべき年になります。今後、記念事業等について学校、PTA関係者共々幅広く協議を進めていきたいと思ひますので、ご助言等賜りたいと思ひます。

なお、昨年行われました野球部創部百周年記念事業(部史編集、雨天練習場建設等)には大変ご協力をいただき、お陰さまで成功裡に終了することができましたことを野球部OBの一員としてお礼申し上げます。

最後に、新しい年を迎えて、会員各位が益々活躍されますことをお祈りし、ご挨拶といたします。ものです。自分の意志と希望と能力に絶対の信頼を置き、生徒一人ひとりの自主性に期待することこそ、百十五年の伝統を誇る津高のいざりであると思ひます。

また、今年度は、学校群の解消に伴い、津高単独の入学選抜を実施し、広範な地域から四四〇名の有為の若者を受け入れることができました。津高が名実ともに日本を代表する高等学校として、世界の検舞台に登場する日が必ず訪れます。津高の長い歴史の中で、この平成七年度が、新たな津高発展の礎となるよう切望しております。

会員の皆様の益々の御健勝をお祈りし、母校の近況の一端を御報告申し上げます。

お元気ですか

鈴木 茂 (昭和20年卒)



ぼく、六十八歳です。不慮で現職のとき以上に元気が減り、連日いろいろなことをして、あちこちへ走り回っています。

昭和三十年前後と、昭和五十年から六十年代へかけての頃と、二度も津高校で働かせてもらいましたが、全くのうらやまです。でも、なつかしきにかまけて、つい自分を甘やかしたり、過去を美化してはいけません。再会して励まされたい、いまを語り、あすを語るクラス会や同期会をやりたいですね。

きょう一日をせいはいはい、とこのぼくははきです。やたらと重なるなつかしき思い出は、気がかりな前兆です。「このころの若いものは」「おれたちのころは」「よかった」「なご長々しゃべるのは、いまが空しい証拠です。人生を経験することによって、いよいよわらかく柔軟でありたいと思ひます。

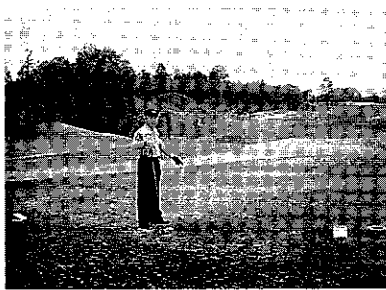
四十年近い教員生活の中で、ぼくがほんとうに学ばせてもらったのは、かつて「生徒」であられたみなさんからでした。ぼくら、たがいに若い人々から「学ばねばいけない」と思ひます。ですので、うそにも若い人をきけずんだり、軽んじてはいけません。若い人たちは先輩について遠慮して、口には出さず、若い人たちの本音に耳を立て、若い人たちの本音にふれる機会をくふうして積極的につくりたいと思ひます。若い人とのシン、世代のちがいはありませんが、シンをつくらせているのはこちらの側で、若い人たちが無条件に信頼するに足る一ツ

年輪を重ねますと、頭も白くなり、はげ上がり、皺もよみよみが逆には悩ましいのがよろしい。人生、いのちあるかぎり出会いかと存じます。次つぎと本音で語り、はげまし合える輪がひろがることほど生き甲斐はありません。みなさん。年をとることによって、たがいに、いい顔になりたいですね。「人間は、一生かかって自分の顔で自分の顔を、コソコソと彫刻する」と山村喜鳥が言いました。あの皺の深い、彫りの深い、あたたかく親しみのある、常に若い人たちが共にある顔の絵仕上げへ向つてすすみたいものです。みなさん。では、お元気で。

# 115周年記念行事 盛会裡に終わる

## ゴルフコンペ大成功!! 実行委員長 竹 林 武 一 (昭和37年卒)

平成七年六月六日、津高創立百十五周年記念ゴルフコンペが、久居市の伊勢大鷲ゴルフ倶楽部で行われ、梅雨の晴れ間の、最高の天候のもと大成功裡に終わりました。七月にわたる実行委員の皆様の協力に対し、厚くお礼を申し上げます。



参加されました皆様は遠くは東京、大阪より、また、津高卒業間もない方から、陳川の大先輩まで

平成七年八月二日から六日まで津市大谷町、県美術館の奥野ギヤラリーを会場として創立百十五周年記念同窓会美術展が開催されました。百五周年から五年、この美術展も、数えて第三回、時の流れをお知らせして応募の依頼をさせて頂きました。今回、三千円の出展料をお願いしたにもかかわらず、絵画一四九点、書道五五五点、写真十一点、彫塑立体造形四十四点、デザイン工芸七十七点、総計二二五五点の作品がよせられ展示されました。

## 美術展をふりかえって 実行委員長 鈴木 一生 (昭和26年卒)

長も駆けつけて下さり、会長挨拶に続き成績発表となりました。それが順位賞になり、だが飛び賞になるか一喜一憂の楽しい成績発表。全行事も無事終了閉会の挨拶のあと、だれ一人として席を立たず、なごりお話しひと時を十分に楽しんでいるようで、これを見ていると今日までの設営の苦勞は満足感に変わりました。

平成七年八月二日から六日まで津市大谷町、県美術館の奥野ギヤラリーを会場として創立百十五周年記念同窓会美術展が開催されました。百五周年から五年、この美術展も、数えて第三回、時の流れをお知らせして応募の依頼をさせて頂きました。今回、三千円の出展料をお願いしたにもかかわらず、絵画一四九点、書道五五五点、写真十一点、彫塑立体造形四十四点、デザイン工芸七十七点、総計二二五五点の作品がよせられ展示されました。

## 東欧の旅に参加して 伊 藤 益 雄 (昭和26年卒)

八月、JTB企画の「津高創立百十五周年記念プラハ、ブダペスト、ウィーンの旅」に妻(昭二七年卒)と二人で参加した。

他のメンバーの方とも初対面ながら山手さん、ジャッキーさん、三ちゃんと思いの話が出る。俄然親しみが生まれるから不思議。一行三名元気で楽しい旅が出来た。

## 刀 根 照 美 (昭和37年卒)

「水上遠くホヘミアの……」この歌のモルタヴァ川に心惹かれて参加した東欧への記念ツアーは思い出とともに日本を再発見させてくれた。

八月二十一日、同行の先輩諸氏三名と機上の人となる。一路フランクフルトへ。快晴。雲の下運かシベリアの大地、蛇行しながら流れる川が実に美しい。

約十一時間でフランクフルト着。タクシーで市内見学へ出かける。さすが自動車王国である。どちらを向いてもベンツ、BMWばかり。翌日、空路プラハへ向かう。石畳に路面電車が走り交々。圧巻はプラハ城である。時代を経た外観とは対照的に、内部のステンドグラスの美しさには声も出ない程



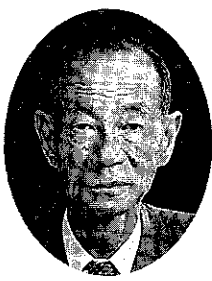
皆様が、目録に力を貸し下さった面先生の、尽力の賜と深く厚く心よりお礼申し上げます。去る九月十四日反省会の席で次

建築史がそのまま生きていくばかりか、それらの古い建物をキチンと修復して、窓に花などを飾って生かしている様子には感激した。

モルタヴァ川に掛かる美しい橋が何世紀も前のものだった。または戦争で破壊されたがその後元通りに修復したと聞くと、津の古い塔橋や若田川畔の百五銀行ビルが惜しまれる。

改革後物価が上がって農家や年金生活者は大変だと聞いていたが、3LDK位の家賃がおよそ月三万円と云えば、やはり西側より物価は比較にならない安さだ。

最後の旅行の収穫は、安心して住むことができ、安心して飲める水があり、豊かな食事ができる日本を再確認できたことである。しかし、ヨーロッパには自販機というものは無く、買い物にしても包装はしない所が多い。従って空缶の山やごみはない。便利さと引き換えに私達が失った物の大きさを感じた。この旅を企画世話して下さいました人々、同行の先輩に感謝。



援、ご協力に対し心から厚くお礼申し上げます。

想起すれば、私の同窓会歴は随分長い道程でした。私の同窓会との出会いは陳川昭和会がスタートになります。

敗戦の後遺症も一応のめどがつき、明るさの蘇ってきた昭和三十三年の暑い頃や記憶しますが、先

## 退任に当たりて

### 辻 嘉 一 (昭和10年卒)

このたび津高同窓会会長を辞任し、岡村初博氏(昭一五年卒)にバトンをお渡しいたしましたが、其の間皆様方から寄せられました、支

たが、昭和三十五年が津中八十年三重校六十周年、津高も十年を迎えるという一大転換期に当り、この際三者合同一本化が望ましいといふことになり、昭和会が幹事の労をとり八月、津高同窓会が誕生。初代会長に藤田氏(大三卒)を選出しました。

も軌道に乗ってきたので、昭和会も一応の使命を果したものと確信し発展解消をすることになりました。第二代会長大塚治郎氏(大三卒)の時代は順調に推移し、十五年十月(第三代会長一真会長昭八卒)世紀のイベント津高百周年の祭典が盛大に挙行され、あらゆる記念行事を展開しました。何



「水上遠くホヘミアの……」この歌のモルタヴァ川に心惹かれて参加した東欧への記念ツアーは思い出とともに日本を再発見させてくれた。

皆様が、目録に力を貸し下さった面先生の、尽力の賜と深く厚く心よりお礼申し上げます。去る九月十四日反省会の席で次

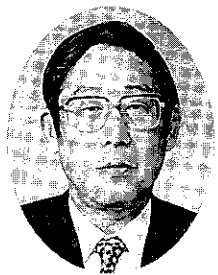
建築史がそのまま生きていくばかりか、それらの古い建物をキチンと修復して、窓に花などを飾って生かしている様子には感激した。

モルタヴァ川に掛かる美しい橋が何世紀も前のものだった。または戦争で破壊されたがその後元通りに修復したと聞くと、津の古い塔橋や若田川畔の百五銀行ビルが惜しまれる。

改革後物価が上がって農家や年金生活者は大変だと聞いていたが、3LDK位の家賃がおよそ月三万円と云えば、やはり西側より物価は比較にならない安さだ。

雑

感



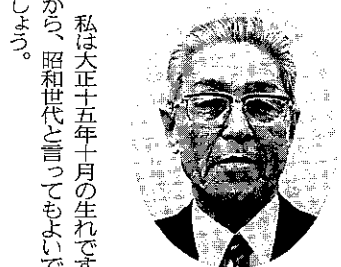
奥田 碩 (昭和20年入)

津高同窓会の会報に寄稿せよとの依頼を頂戴して、如何したものと暫し逡巡しました。社長就任後一カ月余り、一通りの挨拶などは落ち着いたものの、社長業とはかくも様々な行事への参加を強いられるものと閉口していた頃、時間的なゆとりを持つ自信がなかったこと、何より私は旧制津中学に入学した後に、昭和二十三年の学校制度の改革によって当時の松阪北高校に移ったので、新制の津高校を卒業していません。卒業生として会報の貴重な紙面を割くことにいささかの抵抗があり

ましたが、事務局の方の熱心なお誘いに絆されて筆を執ることにになりました。 回話で恐縮ですが、先の日米自動車交渉は、大詰めの段階ではお茶の間にほぼリアルタイムで経過が報じられ、様々な解説や論評がなされました。あるいは、交渉経過や結果について「意見をもちたい方もいろいろしゃべりかもしれませんが、結果如何では日本経済全体に重大な影響を及ぼす可能性もあり、われわれはその責任の重さを認識せざるを得ませんでした。直接の交渉当事者はお役所同士でしたが、妥協の客ごとをいろいろ索し材料を提供するのは民間企業の役割でした。そもそもは、貿易収支の不均衡を背景とした交渉ですが、米国の対日赤字が大きくなり減らさないのは資本財や生産財の輸入が減らないからで、そんなことは

米国の交渉当事者は百も承知のはずです。民間同士では、これまで交渉がこじれるのは想像出来ないくらい関係を持っているつもりでしたが、政治的な問題や過去の通商交渉の実績などが絡んで話がややこしくなっていました。役人同士の交渉の場に持ち出される前に解決できるような、一層緊密なパイプづくりの必要性を痛感した次第です。 日本は輸出産業の多くは、こうした通商問題や為替変動リスクの回避のため、輸出を減らして現地の生産を増加する方向にあり、今後ますますこの傾向が強めていくと思われまます。そうすると、雇用維持のために国内需要をいかに掘ることが必要になり、競争の激化は避けられません。そうした過程で、既に崩れ始めている終身雇用とか年功序列といった

わゆる日本的経営システムも、流れとしては大きく変わっていかざるを得ないでしょう。とはいっても、リストラ(事業の再構築)をレイオフ(一時休体)や解雇に直結させるのでは、経営者として仕事をしていることになりません。 あらゆる道を模索し、あらゆる手段を講じて、生き残りを賭けなければなりません。 成長する、生き生きとした企業であり続けるためには、企業に属する一人ひとりが「起業家の精神」を持って、常に前向きに仕事をやる必要があり、資質としては、柔軟な発想、素早い行動力、思いきりのよさ、果敢なチャレンジ精神などが求められます。大企業といえども、採用にあたっては「奇人」が大樹の陰とといった安定指向型の人を敬遠する傾向を強めていくことになるでしょう。



林 幹 三 (昭和19年卒)

遊び、先生方は勿論、真面目な大半の学友からもあまり好感は持たれなかったであろうと今更ながら反省しています。 そんな私も五十年を経過した現在でも鮮明に記憶に残っている数々の思い出があります。 たしか三年生か四年生の頃であったでしょうか、生徒会参加の野外訓練(長谷山麓の鬼狩りであったと思います)のあと軍事教官のI大尉から講評がありました。そのおわりの部分で意外にも江戸期の戯れ歌がとび出したのです。 「男が好んで金がありそれで女が惚れるなら奥州仙台陸奥守何で高尾が惚れなんだ。男は意気であるみんなキョトンとしていました。職業軍人でも砕けて話の通じる人もいるものだ」と人間臭に妙に親近感を覚えたものでした。戦時色が極めて強く、軍国主義迎合の

らば、自分の受持の一年生が次の出番だからなるべく早く終らせろという注文だけでありました。私は鬱屈したモヤモヤを後輩の科臼を借りて思いきり吐き出し、青春の思い出をつくることに成功したのでした。 昭和十九年春、津に軍医養成のための県立専科が設立されました。とても人を殺したりする勇氣はなく、また自らも死そのものより死に至る課程の恐怖感に悩んでいた私は躊躇なく医師の道を選びました。若い頃のわがまま、勝手を反省しながら、少しでも他の人の役に立てればと願っている今日です。(三重県医師会会長)

陳川時代を偲んで

堀田 吉雄



私は今九十六才。八十年も大昔のこと、十五・六の少年時代、津市古河にあった県立第一中学に通学していた。 同窓会名簿「あ」部長に大正七年

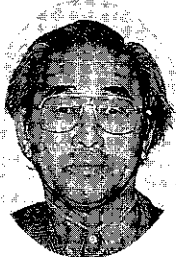
三月卒のころに名をうたわれているが、三年生の第二学期中退した。同級生には、生悦住求馬や眞柄正直などがいたが、多くは鬼籍に入ってしまった。現在私は、日本民俗学会の名譽会員、伊勢民俗学会の会長をしている。 約四十年間、市の文化財審議委員を勤めたし、なお六百頁の論文集二冊を昨年からの今年にかけて伊勢民俗学会から出版した。 健康にめぐまれ、七年間くらい医師のご厄介になっていない。スポーツパーオールドだが、毎年海外旅行を楽しんでいる。今年はいンドへ行く予定だ。

体重四十五キロ、吹けば飛ばすような軽さだが、無病息災、隣りに息子夫妻がいるが、あまり厄介をかける、自分のことは自分です。毎晩缶ビール一本、肴は自分で買いにいき、調理もする。月曜休日を厳守している。 陳川校(三重一中)では松村伝校長から修身、佐々塚二郎先生からは英語を、その他歴史の中島麗吉、美術の我妻栄吉、漢文の駒田義三郎、数学の前田七之助などの諸先生から薫陶を受けた。 思い出している、英語の副読本にパーレ万国史があり、一ページに三十語も不明の単語があり、英英辞典を引いたこと。 数学の難問を解いて、あっぱれあっぱれとおたてられたこと、蟬の絵を描いて我妻先生から褒美を頂いたこと、外出には必ず袴をはかされたこと、期末と学年末には全校生六百名の成績、発表が印刷され、親元へ郵送されたこと、

生徒控所に学年ごと席次表と落第生の氏名がずらりと張り出されたこと、年一回鬼狩りを遊んだことなど思い出はつきない。 お前は生意気だといって上級生になられたこともあった。私の

終戦の日の謎

野崎 耕 一 (昭和20年入)

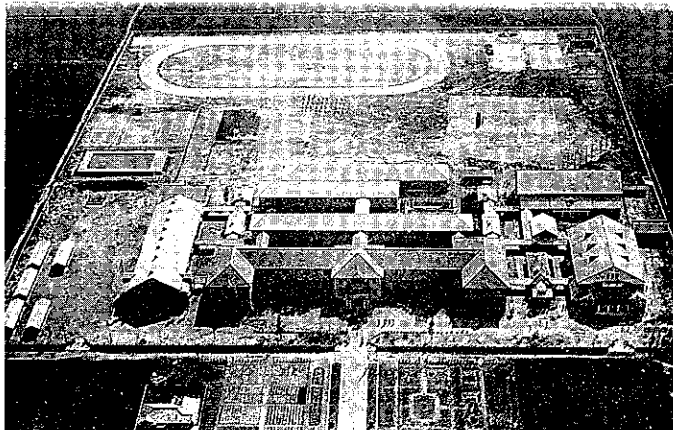


丁度五十年前の八月月中旬の事です。 「本十決戦に備えて、本校に下賜されている銃を軍隊に奉納する為八月十五日午前中に、陳開先先生の水小学校(多分)から久居の聯隊まで搬送する事。 一班は辰水小学校から中継地点の片田小学校十時必着、二班は片田小学校で引継ぎ、久居までの搬送

とす。久居到着は十二時以内厳守」という命令を受けました。 「一体、この鉄砲と銃するんかいなあ」と言いがらも、「とにかく持って行け」と言われて、鉄砲を肩に徒歩と自転車搬送された者は助かったのですが、殆どは日清戦争時代の村田銃で、初めて本物の銃を手にした中学一年生には、真夏の炎天下八軒にも及ぶ道

言動が目立つ数多くの教師達の中でさわやかな感じだったので。 私が最終学年五年生の秋、キャンパスの北西にあった大講堂で演劇祭がありました。私は倉田百三原作の「俊寛」から自分なりのシナリオを作り後輩役を探しましたが誰もひきつけてくれず、やむなく自作自演することになりました。 (存知のように鬼界島に流された俊寛ですからその衣裳はたとえ洗濯をされても洗滌しては破った

大きな疑問となって残りました。 と言いますのは、その時期は一度夏休みで、今のように電話連絡網がある訳でもなく、焼跡整理に駆り出されてはいましたが、毎日ではありません。そんな状況で、日時を合わせて総勢百人を越す生徒を動員するには、終戦が何日も前に分かっていたいなければ不可能ではないかと思うのです。 その後、私たちは久居の兵舎に校舎を移したのですが、目の前にあったものは、焼かれて、真っ赤に錆びた銃の山でした。恐ろしくその中にあの時運んだ銃が含まれていたに相違ありません。



# 「ネコに学ぶ不即不離」

福島 和代 (昭和20年卒)



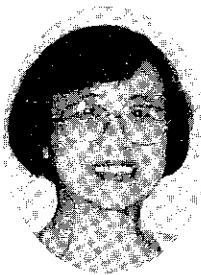
わが家には猫が二匹居る。二匹ともメス。これがなかなかのものです。気が高く、めったに飼い主たちに服従しない。とりわけ子猫は全身まっくらで、足の裏まで黒い。暗い所に居るときは、丸い金目が二つ光るので、あそこ居るなとわかるくらいである。しかも相手にこちらの行動がわかるから、近寄って抱いてやろうとするたびに体をかわして逃げる。今年の夏で二歳になるが、あまり甘えんぼ。うやうやした素っぴい黒毛はビロードのようで思わす触りたくなるのだが、手をのびすと巧みにすりぬけて行く。

猫は非人情な動物だとは世の愛猫家たちの通説のようである。漱石先生ならすも、この非人情こそが、猫の魅力であり、特権だと思える。しかも飼い主たちに自ら奪われまいとして逃げたり、かくれたりするしなやかさは、ただかな癒しをあたえる。

ところで、わが家には九十才を越えた婆様たちが三人居る。加えて私が一番若手の、古稀を二、三年後にひかえた、花もあきれぬ嬢様である。いずれも亭主の葬式を済ませた女たちで、口舌がない童へんどもは、バケモノ屋敷だと言っている。そして私は、そのバケモノ屋敷の執事を以て任じている。つまり、大婆三人と中婆一人とメス猫二匹。これがわが家の構成員

# 若い命への「れくいえむ」

伊藤 れい子 (昭和23年卒)



刻々と写し出される映像に、今から五十年前の津のあの空襲の折の惨状がオーバーラップされ辛い思い出が蘇ってきました。

昭和二十六年六月二十六日、当時三年生の私は、朝からの警報「学校工場」は自分たちの手で守らねば、モンペ姿に白鉢巻も濡々し、登校して居りました。

やがて始まった爆撃に新羅先生の「二二」は危ない。阿漕浦の海岸へ逃げよう」との号令のもと、艦載機の狙い撃ちを避けるながら海岸の松林の木から木へと逃げ惑いまいがひとしおです。

夜明けの眠りを破った阪神淡路大震災は、一瞬にして幾多の家屋の倒壊焼失、数千の人命を奪ってしまいました。中でも前途に夢と希望を抱いたまま散っていった多数の若い命を思う時、胸の痛む思いがひとしおです。

# 平成8年度 三重桜総会案内

とき / 平成八年四月十四日(日) 十一時三十分より

ところ / 津都ホテル 伊勢の間 (三重会館前)

会費 / 五千円

備考 / 日程等詳細については後日年度幹事を通じて連絡いたします。

というわけだ。しかも、おかげ様で三婆も脳は正當で、記憶・判断ともにあまり狂っていない。これが、時々私をいら立たせる。

入れ歯でガタガタの口から、くたくたと言いわけのような感嘆のようなせりふを吐き出してくる。たまりかねて、「ババ、ダメレツ」と叫ぶ。これで私の溜飲はぐっと下がる。しかし、婆様の方は負けじと同じせりふを吐き出している。全く、人間の親子の情、血縁の情といふものはどうしようもないものだ。どつくづく思う。母も、伯母も、叔母も、いずれも血縁がある。因縁という絆がある。それに引かれて「何となく」書いているのだが、最近、私自身の生き方でもしうい事がわかってきた。それは、ネコたちの生きざまに近いのでは

ないかというところだ。

人の手からすりりと逃げるしなやかさ。気位高く自分を守ろうとするたたかき。いずれも執着をきらい、束縛をきらい、しかも人の情けの温かさに甘えもし、うまく自然な姿。まさにこれこそ不即不離の生き方ではないか。意識せずとも自然に調和する。つかず、離れず、気にせず、叫ばず。

人と人の生き方も、人とネコとの生き方も、人と仕事、人と遊び、いずれも関係において不即不離がかっこいい。とらわれぬ、のめり込み、情に縛さじたりせず、私も、ネコたちのように人生ざりりと生き抜きたいものだ。しみじみ思っている昨今なのだ。

# 思い出すままに

鈴木 恭子 (昭和20年入)



早いもので、もう敗戦後五十年たった。世代は、戦争を知らない人達へ移りかわろうとしている。私共が女学校に入ったのは、日本の敗北が明らかな昭和二十年であった。それでも当時は、反動的な言動も取れるという一言も禁忌うか。「土方さん、さようなら。安らかに眠って下さい」と母と二人、思わず手を合わせたことを今でもはつきりと覚えています。

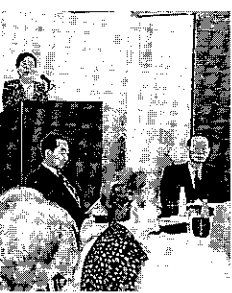
あれから五十年。平和な、幸せな時代を生きてきました。戦乱のあの時代に生を受けたことで、鍛えられ、試され、強くなったと自負しています。

でも、その陰に人生の半ばを散っていった若い命を思う時、あの受難を二度とくり返さない為にもどうにかいまでも平和を心から祈る思いの今日この頃です。

# 明るく和やかな総会

三重桜部会長 佐々木 かよ (大正15年卒)

桜花満開の四月九日、七年度総会を津都ホテル伊勢の間で開いた。県内各地から又東京、名古屋支部からも参加、会員一四七名、来賓として津高校教頭西田正弘先生、



松岡伊三男先生、辻同窓会会長、岡村、富島副会長、事務局から奥山、松井先生が御出席下さり盛大な集いとなった。

先ずなつかしい校歌を斉唱、物故者への黙悼の後、青春時代を偲びつつ会は進行、部長の「本年は婦人参加五十年意義ある生活を」との挨拶に続き、来賓の方から心暖まるお祝辞を頂いた後楽しい会食懇談となった。明るく和やかな雰囲気で相互に友情を深めた。

# 今村先生を偲んで

浜口 登代子 (昭和18年卒)



今村房先生は八十九才の天寿を全うされ、九月二十七日に大勢の三重桜の同窓生が参列してご葬儀が行われました。

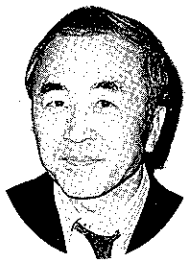
先生に初めてお目にかかったのは、昭和十四年九月に河芸高女から津高女に転任してこられた責任者の日でした。当時の女先生としては珍しい洋服姿でした。後日、伺ったのですがその時のハイカラな洋服は先生が自分でとりよせた本を参考に工夫して縫われたものだったそうです。

昭和十八年三月に卒業するまで私達の学年は新羅・今村・山田の三先生に担任して頂きましたが数回を教えて頂いた今村先生は授業時間数が最も多く頼んだ先生でした。生徒の良い所をよく認めて下さった優しい先生でした。

退職後は社会教育の分野にも活躍され、三重県民功労賞を受賞される女性として立派な生涯でした。私達の同窓会には八十才を越されるまで必ず出席下さり退職されてから習われた日本舞踊で私達を楽しませて下さいました。かつての同窓会の後、山田重次郎先生が「老女教師に残る色香や舞踊」とお詠みになりましたが告別式で「舞音をなされる先生のお姿には格別の哀悼の思いが感じられました。今村先生の御冥福を心からお祈り申し上げます。

「ひまらや杉」 チューリッヒ

米川 泰弘 (昭和33年卒)



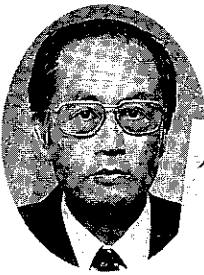
「人ありてわれに与へし、木の枝にさけるこの花、くれなるの花の色香よ、ものいはずものおもはぬ、この枝に「ひまらや杉」我々昭和33年卒の卒業アルバム「ひまらや杉」にある詩である。同級生のアルバム委員の誰かが選んだものであつた。昨日のよつに津高に...

たが、運命の不思議、周りの人々の支え・理解のお陰で、しひいでた。私は、ヨーロッパの名門とされているチューリッヒ大学脳神経外科の教授に招聘され、五〇才を過ぎた一九九三年初頭に着任した。顕微鏡下の手術でメックであった「チューリッヒ」の当科に、私は一九七〇年から七年滞在、修業した後、日本に帰国していったのである。数年前、その頃の師のY教授が退官されて後任を捜考することとなった。リストにあつた他のヨーロッパ・アメリカの有力な先生方をさし置いて私が選ばれたのは、チューリッヒの流れをくむ人々で適当な人が結局私しかいなかったというところに依るものである。

私は「これ」として非常に秀でた才能・分野がなかった。いつの間にかの節目があつた。関係上、多くのノーベル賞受賞者にお会いし、研究の苦勞話や受賞にまつわるエピソードを聞かせていただきました。昨年、熊大の集中講義でその話をしたところ、いつも居眠りする学生が目撃された。輝かせて講義を聞いてくれました。先生方も教室の後ろに立って聞いてくださり、当時の研究者としての興奮を思い出さうと思つていただきました。

あなたも狙えノーベル賞

石田 寅夫 (昭和32年卒)



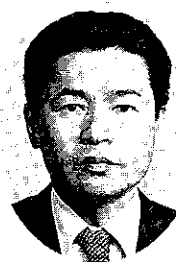
今度「あなたも狙えノーベル賞。科学者九人の受賞物語」という本を(株)科学同人(無料電話)〇二〇二二六(四九)から出版された。本会報に書くことを依頼されました。非常に光栄に存じます。津高時代はツルゲーネフ、トルストイ、ドストエフスキーに心酔し、小説書きの真似事をしました。が、東大の生物学講義で生命現象を化学物質の変化で説明するク

とを計算なしにやってこれたと思う。また、そうできたことを感謝している。再び、ヨーロッパに戻ることもないと思ふ。京大に在籍して、日本に根を張る。職場を求めて、日本に根を張っていたのである。こちらで使っていたドイツ語もその十数年の間にさびびってしまった。ただ日本にいる間、手術記事だけはドイツ語で書いていた。医学では英語中心の今日、周りの人々からすればあまり意味のない努力であると思われたことであろう。それが結果的にはドイツ語を忘れないための歯止めとなつたわけだ。今の私を大いに助けているのである。毎日の責任ある仕事にドイツ語ができることは大前提である。若し頃には周りの人々に与えた印象が辛い良かつたのでチューリッヒに呼び戻されたのだと思う。私は、先の先の将来まで考えて行動する方ではなかった。大学を選択する時、学部を選択するとき、専攻科を選択するとき、周囲の助言に左右されたり、迷い迷いしながらも結局一番やりたいと思つていただけ

教授となり、医学教育の先達となられたのである。そのかたがたの業績を、長くその脳研究所長をされ定年退官されたA教授とともに明らかにすることがその一つである。当時の先達の業績、ドイツ語の練達を自らの当りにして、感服のほかにない。私は、その先生方と違つてもう日本の学生さん、患者さんに直接お役に立てる立場ではなくなつた。が、「ここでこれらの皆さんの役に立つことがない」とは、これらの人々これまでお世話になつた人々に間接的にもお役に立つことになるのだと割り切つて居る。幸い、健康には恵まれて居るのである。天分を全うしたいと思つて居る。また、こうして、異国で私が活動していることが、若い津高の同窓生(チューリッヒ大学医学部 脳神経外科主任教授)の皆様には何らかの刺激になれば嬉しいと思ふ。わが家からは、晴れた日には遠くアイガー・メンヒ・ユングフラウが望めるが、津高生の時に何回も写生し、「ひまらや杉」にその写真も添えて居る山並みも懐かしく思い出されるのである。(チューリッヒ大学医学部 脳神経外科主任教授)

面に魅せられて

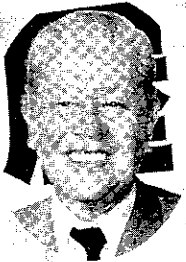
林 龍雲 (隆久) (昭和35年卒)



能楽師や面打ち師といふ、何か特殊な世界のように思われまが、私は深い関わりもありませんでした。して挙げれば、津高で謡曲部に入つたことでしょうか。昭和三十年代に高校の謡曲部といふのは珍しかったと思ひます。土保先生、草野先生が顧問で、部員のほとんどは女生徒でした。大学時代に、サイドワークとして学外の能楽鑑賞会の能面研究室に所属したのを契機に能との触れ合いが深くなりました。大学卒業後、国外勤務で少し空白がありましたが、退職して教員になり、職場で偶然同じ趣味の先生に出会い、その人について京都に通い、面打ちに精通するようになりました。能面の素材は木曾の官材で、ヤ二のない五、六百年を経たものを使ひます。制作過程は、おおまかに、木取り、粗彫り、小作り、裏彫り、裏仕上げ(漆仕上げ)、胡粉かけ、彩色、毛がき、汚し(仕上げの化粧)といった工程があります。その他に霊的な面では、金泥の処理、目玉や歯を金属で被せたりする彫金、刷面では、馬のたてがみ等を使って髪を結びあげる

鈴木正治先輩を悼む

名古屋同窓会 富島 照男 (昭和28年卒)



「津高名古屋同窓会」(会長・江崎誠三元豊田通商会長)の生みの親とも言うべき鈴木正治さん(昭和十七年卒)が、昨年三月十七日急逝された。名古屋同窓会は、運営一切をお引受け頂いた。まさに名古屋同窓会の牽引者であり重鎮であった。温厚篤実な人物で、ワインと酒を愛し、先輩後輩のへだたなく礼を尊び、まとめ役に徹しきつた。人々から敬愛された。社長をつとめられた「材徳さん」

お役に立てる立場ではなくなつた。が、「ここでこれらの皆さんの役に立つことがない」とは、これらの人々これまでお世話になつた人々に間接的にもお役に立つことになるのだと割り切つて居る。幸い、健康には恵まれて居るのである。天分を全うしたいと思つて居る。また、こうして、異国で私が活動していることが、若い津高の同窓生(チューリッヒ大学医学部 脳神経外科主任教授)の皆様には何らかの刺激になれば嬉しいと思ふ。わが家からは、晴れた日には遠くアイガー・メンヒ・ユングフラウが望めるが、津高生の時に何回も写生し、「ひまらや杉」にその写真も添えて居る山並みも懐かしく思い出されるのである。(チューリッヒ大学医学部 脳神経外科主任教授)

# 野球部創部百周年記念式典を終えて

## 今日から百一歩をめざして

実行委員長 濱 口 幸 雄 (昭和31年卒)

わが津高野球部は明治二十八年に誕生しました。今日まで一歩一歩あゆみつづけて百周年を迎えることができました。

この間、戦時下においては敵性

スポーツだとされながらその圧力に屈することなく部活動を続けてこられた先輩諸氏の苦勞を思うと感無量であります。

そして今年から百一歩をふみだ

すことになりました。これからは力強い歩みをつけていきたいと思っています。

その百周年を祝うための記念式典が去る十月十五日、津センターパ

ールの高野連の皆様をはじめ県下野球関係者、OB、そして同窓会

員等々二五〇名にも及ぶ方々がご参加いただき祝って下さいました。

第一部は記念式典と記念講演が催され、講演者は、アマチュア球界のボスで元朝日新聞社運動部長の好村三郎氏をお願いすることに

演題は「高校野球に関する一考察」で、齒に衣させぬお話に会場は爆笑また爆笑で有意義な記念講演でした。

第二部は懇親会、OB会の長老で元阪神タイガース社長の小津正次郎氏の挨拶ではじまりました。

来賓として、出席の近藤津市長、別所PTA会長、富岡同窓会副会長が祝辞を述べられました。

同窓会長は野球部OBとしてこの乾杯の発声をお願いし、賑やか

なパーティーに入りました。歴代監督や顧問の先生の紹介が行なわれ、その当時選手として活躍した皆様との久しぶりの対面で

あちらこちらで昔話に花がさました。

以前からのライバル校だった宇治山田商業からは、服部力氏(元法政大学)、元三重交通野球部監督、豪腕でならした三林投手(元国鉄スワローズ)はじめ四氏が、また、全国制覇の四日市高校(昭和三十年)からは伊藤内野手三氏がお祝いにかけて下さって一段と盛り上りました。

「バハオーフェンが面白い」十数年前のある日、たまたま学生時代の指導教官であったU先生に電話をかけることがなければ、おそらくは私の脳裏にすりこまれなかつたであろうバハオーフェンという名前。私にとって異端のローマ法学者というイメージでしかなかった存在と、それ以来十年以上にわたってつき合ひ、まして、電

全知全能を傾けて全力でぶつかっていかば必ず道が開けるものだと思います。私が皆様に自信出来るのは、若さで行動力だけですが、津高同窓会副会長という大役に先

の言葉どおり全力で頑張る所存です。さて、私が常々心の中に銘じていることがあります。それは「Anything is possible」という言葉です。日本語に訳しますと「やろうと思えば何でも出来る」という意味になります。人間、このことを成し遂げようとする時

が肩をたたきあい、握手をかわしながら当時をしのぐための談笑に、百年の計ここに極まりといった感じ一杯でした。

津高野球部百年の歴史で特筆すべきは、なんといっても昭和二十八年、夏の甲子園出場であります。

左腕大川投手を軸に近藤主将をはじめ好打者を連ね、三岐代表として、永年の夢が実現いたしました。甲子園のヒノキ舞台では、宇都宮工業に二対一で惜敗はしたものの心に残る素晴らしいゲームでありました。

なわ、今日までの歴史のなかで故人になられた先輩諸氏の尽力

には頭の下る思いです。特に岩橋治郎氏、初代OB会長の郡俊雄氏らには格別の思いがいたします。

この百周年の行事には全国各地より多くの支援と協力をいただきました。おかげで記念事業として立派な雨天練習場(写真)が完成いたしました。

この恵まれた環境の下で心と技の練習に励み、更にたくましく歩んでくれることを切望いたします。

最後になりましたが全国からお力添えをいただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

# 『母権制』 翻訳記

吉原 達 也 (昭和45年卒)

方があるようだ。一冊の本が歴史を通じてどのように読まれたか、その軌跡を辿ることにしよう。その書物自体のさまざまな側面だけでなく、その書物が読まれた時代

の知的局面、あるいは読み手自身の知的断面が浮かび上がってくる。バハオーフェン『母権制』もそのつた書物の一つに数えることができる。とりわけ、この本が人類学者たちのアカデミックな家族起源論争の発端になっただけでなく、一方で、エンゲルスやペーベルといった社会主義者たち、他方で、クラークスやポインターといったナチス登場前後の、非合理主義的なオロマンティックカーたちという政治的にも、世界的にも、対立する左右の両陣営によって熱烈に支持されたり、さらには、トーマス・マンやヘッセといった文学者に影響を与えたというところが、この本が知の歴史に及ぼす振幅と射程の広さを物語っている。

バハオーフェンは神話の古層を解説することによって母権制を発見した。女性による新しい生命の誕生は大地の豊饒性と等置され、女性のもつ宗教性、愛、優美、平和などの特性が尊重された時代、万物の源たる大地母神の時代、デメテル、アプロディテ、アルテミスといった女神やディオニソス

が崇拜され、月、閻、冥界が信仰の対象となった時代、地母神信仰の時代の発見……。

最近の歴史学はその方法をめぐって大きく揺らぎ始めている。顧念の成層、そして、その根拠を引き出すとする『母権制』の手法は、今世紀初頭以来の精神分析人類学、神話学、民族学といった領域が、社会科学としての学問的関係をもつのかという問題をも深くかかわっているように思われる。それらの成果を入れることによって、社会科学はその基礎づけを失うのか、それとも新しい歴史学の誕生のための陣痛の苦しみに耐えるのか、といった大きな問題の前に、われわれは立たされている。

バハオーフェン『母権制』は、このバハオーフェン『母権制』は、こうした現代の知のあり方を問いかける。強烈なインパクトを与える書として、読み直しを迫っている。

(広島大学法学部・教授) バハオーフェン『母権制』上下巻(白水社・一九九二―一九九三年刊) 第三〇回日本翻訳文化賞受賞。

から歌やお遊戯を仕込まれる。横になつてお昼寝の時間に持ち込もうとするがすべり起される。ときとして娘に反抗され、憎まれ口をたたかれると、本気になつて言い返してしまう。娘が寝た後は持ち帰った仕事を処理するといつ忙しい毎日を送っています。これも、同業者で、仕事上の悩みなども聞いてくれ、一応の家事能力も備えた夫がいて、家族が健康で(娘が二歳になるころまでは、保育園からの「熱が出ましたから迎えに来て下さい」という電話が一音こわかった。夫も私も忙しかった。夫の面倒を見てくれる両親、義妹、叔母たちの助けがあるから、楽しんで、充実した生活ですが、楽しんで、充実した生活と自覚しています。ただ、時々あの二〇年前のボートと海菜の夢を描いていた頃が思い出されます。なつかしく思われるこのころです。

(大阪地方裁判所・裁判官)

# 二〇年前と今と

森 純 子 (昭和52年卒)

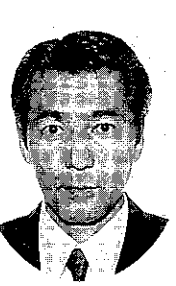
選択する簡単には決められず、毎夜机の前に座ってボートと考えることをし、漠然とした将来像を描いておりました。

あれから二〇年。二〇年前には三〇代半ばの人は立派な大人に見えましたが、我が身を省みると、幸い裁判官というやりがいのある仕事に恵まれたものの、未熟さは

秋、修学旅行は終わり、部活も引退し、幼稚園のころから続いていたピアノのレッスンも先生の病気ののためにやめ、急に放課後の自由な時間が長くなり、そつとこつと受験勉強をするわけでもなく、そもそも将来をどうするかはおろか、直前に迫った理系か文系かの



今から二〇年前、高校二年生の秋、修学旅行は終わり、部活も引退し、幼稚園のころから続いていたピアノのレッスンも先生の病気ののためにやめ、急に放課後の自由な時間が長くなり、そつとこつと受験勉強をするわけでもなく、そもそも将来をどうするかはおろか、直前に迫った理系か文系かの



# 津高同窓会副会長就任にあたって

飯田 宏 (昭和49年卒)

津高在学当時、私はボート部に所属して毎日若田川で練習に明け暮れていました。ご存じのように津高ボート部は全国大会で優勝したこともある輝かしい歴史を誇るクラブですが、私たちの学年は部

同窓会副会長に推挙頂きましたが、私自身は浅学非才な者であり、この大役をお引き受けさせていただいて良いのか色々迷いました。しかし、お世話になった恩師の方々や諸先輩の皆様方の、恩に報いる

ていことがあります。それは「Anything is possible」という言葉です。日本語に訳しますと「やろうと思えば何でも出来る」という意味になります。人間、このことを成し遂げようとする時

今後共、より一層のご指導、鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。 (飯田酒造(株)社長)

愉快、再会、そして語らい

高井 郁子 (昭和49年卒)

今年は津高創立百十五周年にあたり、同窓生の数も四万人に迫らんとする中、八月五日、恒例の津高同窓パーティーを、昭和三十七年、四十九年の卒業生が幹事担当で開催させていただきました。

「愉快、再会、そして語らい」のキャッチフレーズそのままに、参加していただきます皆様は旧交を温めていただくために、私共幹事学年をホスト役に、大いに食べて飲んで、会話を楽しんでいただくパーティーから始めるといって型を取らせていただき、途中に照明効果と司会進行役によるセレモニーをはさみ、何よりも、参加者の皆様に出会いと語らいの場を大切に

お知らせ・ご案内

ご案内

メモリアルコンサート

津高の卒業生である世界的アーティスト 山崎洋子氏の没後七年に際し、左記のようにコンサートを開きます。

日時：平成八年三月十三日 場所：津リジョンプラザ

出演者：高橋啓三、お城ホール、永井和子、メゾン・ソフ、ラン

「戦争の時代と私」発刊

遅かなり戦後五十年 発刊：平成七年十月一日 編者：三重県立津中学校

西会

昭和六年の満洲事変から終戦まで十五年間にわたって青春時代をおくり、多数の戦没者を出した世代の様々な思いをこめた文集。 ◎四十五年卒ゴルフコンペ 昭和四十五年卒業のゴルフコンペを左記により開催いたします、奮ってご参加下さい。

日時：平成八年五月二十六日(日) 場所：タートルエース ゴルフ倶楽部

津高同窓会役員名簿

Table with 5 columns: 役職, 氏名, 卒年, 氏名, 卒年. Lists board members and their terms.

二報告

◎三重校・昭和21・22年卒業生年会 平成七年度学年会は、五月九日、開港八カ月の「関西新空港」に三重をはじめ、京都・滋賀・東京・千葉・和歌山から、三五名が集いました。

◎三重校・昭和二十年卒の古市道近さん(一身田在任・書家)よりご愛用の「藤原行成」一小野道風

お知らせ

役員改選

本年は二年に一度の役員改選の年に当り、昨年六月二十四日(土)午後開催されました代議員会に於て別表のように役員が決定いたしました。

事務局より

▼昨年一月十七日未明におこりました兵庫県南部大地震では、多数の同窓会の方々が被災されました。衷心よりお見舞い申し上げます。



二期制を導入して 中間報告

津高教諭

二期制推進委員長

西岡良卓

本校の二、三年の、教育制度の変化に二期制に至るまでを中心として、ご紹介いたします。平成五年の秋より、学校五日制になり、月に一回土曜日が休みの日になり、全週五日制に向けてスタートしました。

分を前期(四月一日)九月三十日、後期(十月一日)三月三十一日)とする二期制を導入致しました。

徒会行事の計画・実施に特色を出して学校の活性化を図るため、二期制に移行する。



進路室より

津高教諭

進路指導部長

楠井善治

今年度在校している津高生は三年生とも、それぞれ異なる状況下にあります。十年余続いた旧教育課程が昨年改定となり、長年社会科と呼ばれていたのが新たに歴史と公民に分かれるなど、大幅な改訂となっております。

かり、単純にみれば受験生が減少すれば入試が楽になると考えがちですが、実際は全国的に進学希望者が増加し、難関といわれる大学については相変わらず難しい入試が行われています。

種資料を収集し、的確に指導できるように、分野別に係を配置して分担し指導に当たっています。

紙面の都合上、今回は会員の異動を掲載出来ませんでした。新しい名簿の発行から間もないこともあり、次回に掲載する予定です。

(平成7年度大学合格者数)

Table showing university合格者数 by year and school type (National, Public, Private, Short-term).

(平成7年度 主要大学合格者数)

Large table showing university合格者数 by year and specific university names.

いるのではないかと感じます。又夏休みが学期の区切りでないため九月一日からすぐ平常授業を開始致しました。

お知らせ

平成八年度 同窓パーティー

青春回帰—あの刻へ—

日時 平成八年八月三日(土)

午後三時より

場所 メッセウイングみえ

(津市北河路町19-1)

担当学年幹事 昭和38年卒(代表 鈴木 秀昭)

昭和50年卒(代表 桑名 康文)

各地で同窓会開催

名古屋同窓会

平成七年度津高名古屋同窓会が

九月九日千種区の弥生会館で百余名の出席を得て開催されました。

総会では、江崎誠三会長の挨拶があり、長年事務局長としてお世

院長の大北威先生(昭十七年卒)

による「医学瑣談」と題し、主として肥満について解りやすく、薬

し、肥満の危険性を述べられました。

総会では、江崎誠三会長の挨拶

があり、長年事務局長としてお世



「白い夢」 佐久間利秋(昭和4年卒)

報告が、その後、和気あいな、とした、なごやかな懇親会が行われ、最後に、陳川、三重、津高の校歌を全員

京都同窓会



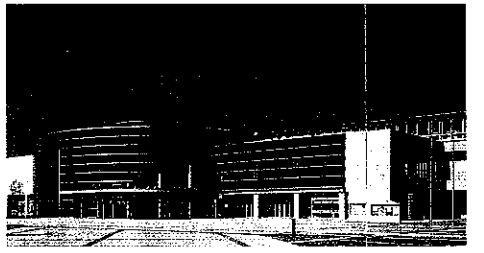
が声高らかに合唱し、再会を誓って閉会しました。

紅葉には少し早かったが、御池通りで京都まつりのパレードが盛大に行われ、市役所前ではグループ入りで確実となった京都パーナ

九州同窓会 昨年五月二十一日に第六回総会を福岡市で開催しました。津高から

大阪同窓会 あの一十七日未明の大震災から十ヶ月経った十一月十二日、第

東京同窓会 「故郷と青春」をテーマに平成



本年の同窓パーティー会場・メッセウイングみえ

平成八年同窓会

青春回帰—あの刻へ—

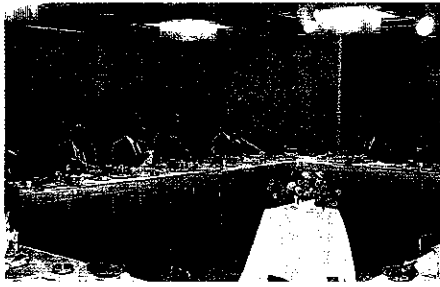
同窓会が変わります。まず、開催場所が変わります。平成八年八月三日(土)メッセウイングみえ(三重産業振興センター、津市北河路町)で開催されます。

同窓会パーティーは毎年、担当学年の方が趣向を凝らし、歴史と

同窓会が変わります。まず、開催場所が変わります。平成八年八月三日(土)メッセウイングみえ(三重産業振興センター、津市北河路町)で開催されます。

同窓会が変わります。まず、開催場所が変わります。平成八年八月三日(土)メッセウイングみえ(三重産業振興センター、津市北河路町)で開催されます。

九州同窓会



九州同窓会 昨年五月二十一日に第六回総会を福岡市で開催しました。津高から

大阪同窓会 あの一十七日未明の大震災から十ヶ月経った十一月十二日、第

東京同窓会 「故郷と青春」をテーマに平成

東京同窓会



東京同窓会 「故郷と青春」をテーマに平成

東京同窓会 「故郷と青春」をテーマに平成



「故郷と青春」をテーマに平成